

# きゅうがめら! TOKKO PRIDE! TOKKO BRAND!

## 徳之島高校通信

令和5年度  
5月号  
199号

～徳之島高校から「きゅうがめら! (こんにちは)」～

青い海・緑豊かな大地・赤く輝く太陽の下、イキイキと輝く徳高生の姿をPICKUPしました。

### 高校総体壮行会

5月1日(月)、高校総体壮行会が実施されました。

校長や生徒会長から激励のことばがあり、部活動生を初め、全校生徒が力を貰ったことと思います。また、各部の主将が決意表明を行い、各部が最後の試合に臨む意気込みを感じることができました。

日頃の成果を十分に発揮し、悔いやけを残さずに帰ってきてください。



### 教育実習

5月15日(月)より本校での教育実習が始まりました。今年度は3名の卒業生が実習を行っています。

#### 【実習生紹介】

赤崎 祐斗さん 教科：美術 大学：佐賀大学 実習期間：2週間  
幸多 翼さん 教科：英語 大学：駒澤大学 実習期間：3週間  
大窪 伶奈さん 教科：美術 大学：群馬県立女子大学 実習期間：4週間

全校朝礼前に行われた実習生紹介では、一人ずつ全校生徒への挨拶を行いました。3名ともワクワクとした表情を浮かべ、それぞれの思いを生徒たちに伝えていました。生徒たちも、本校を卒業した先輩である実習生と過ごす時間を楽しみにしていることと思います。お互いに良い刺激を与え合って有意義な時間になることでしょう。



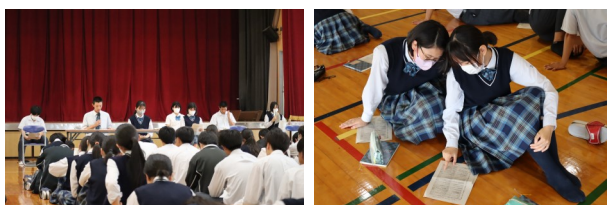
### 生徒総会

5月16日(火)、本校体育館に全校生徒が集まり、生徒総会が実施されました。

生徒会執行部や議長・副議長が中心となり会を進行しました。

生徒会の活動報告や決算報告、今年度の計画の紹介、学校のルールなどについて、調整・追加、部活動の創設の提案が行われました。

学校のルールについての調整では意見を出すのが難しい場面もありましたが、生徒間で意見を交換し、全体で共有していました。今回の生徒総会は、徳之島高校をより良くしていくための大切な一歩になったと思います。



## 校長雑談 ～徳高プライド～ Vol.2

### 対コロナの 新局面を迎えて

新型コロナウイルス感染症の法律上の取り扱いが、これまでの「二類相当」から「五類」に変更され、「コロナとの戦い」が新たな局面を迎えました。

これからは「戦い」ではなく、「つきあい方」と言う方が実際に近いのかもしれないですね。

今回は、この長かった「コロナとの戦い」の中で私が感じていたことと、「なぜ学ばないといけないのか?」という、結構な割合で高校生がぶつかるであろう根源的な疑問に対する私なりの考察とを関連づけて、少し長くなりそうですが、お話ししたいと思います。

### 知識と考える力の 関係性

少し前までは、「学力とは知識ではない。生きる力だ」とよく言われていました。

近頃は、「学力とは知識ではない。考える力だ」と言われることが多くなっている気がします。

そういった風潮の中で、「高校生の考える力が育たないのは、学校教育が知識の注入に

偏っているからだ」と言う人もいます。しかし、「知識」と「考える力」との関係はそれほど単純ではないと私は思っています。



### 日本人らしく なかった行動

新型コロナウイルス感染症への対応で、私がとても気になったことがありました。

「〇〇が感染予防に効果的」と誰かが言えば、人々がこぞってその品物を買いに走るという事態がいくつか見られたことです。

たとえば、「トイレットペーパーが不足する」という風評が広がれば、あらゆるドラッグストアやスーパーの棚から一斉にトイレットペーパーがなくなる・・・今思えば見当違いで、「今どきの日本人がこんな流言に流されるのか?」と思えるようなことがいくつか起きました。

### 6月の行事予定表

### 下段へ続く

3日(日)	第1回英語検定(1次)
5日(月)	生徒指導朝礼
8日(木)	3学年PTA
9日(金)	眼科検診
12日(月)	全校朝礼、表彰式伝達式文化祭準備期間【45分×6限】(～16日)
17日(土)	文化祭

18日(日)	第146回全商ビジネス計算実務検定
20日(火)	部活動停止(～29日)
23日(金)	家庭科技術検定 筆記試験
24日(土)	第13回PTAスポーツ大会
25日(日)	第96回全商簿記実務検定
26日(月)	学年朝礼
27日(火)	期末考査(～30日)



鹿児島県立徳之島高等学校

〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津784番地 Tel 0997(82)1850 Fax 0997(82)1851

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tokunoshima/



現代の日本人には考える力がなかったのでしょうか?

私はそうは思いません。日本人は概して思慮深く、節度ある人々であると私は思っています。日本人がそのような行動に大挙して向かった原因は、新型コロナウイルスが私たちにとって未知のもので、それに対する情報をもっていなかったからだというのが私の見解です。感染が急拡大し始めた頃、ネット上などで「日本で数か月の間に数十万人が死亡する」という情報が踊った時期がありました。そんな極論に怯えて、感染された方やそのご家族、医療従事者の方々に誹謗中傷するような社会的悲劇まで発生しました。



しかし、医学が進歩した今日、この新たな感染症についての情報が徐々に蓄積され、私たちは正しい知識を元に理性的な行動ができるように少しずつなってきました。こうなれば、こっちのものです。

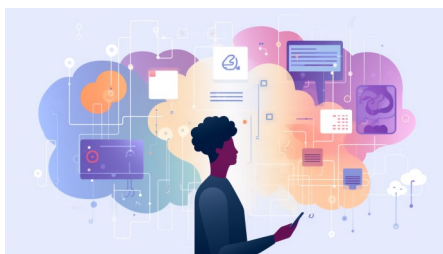
### 多面的な考えの 働き方

正しい情報に基づいて、私たちが節度を持って行動した結果、この感染症による混乱は徐々に収束する方向に向かっていきました。実際、完全に根絶した訳ではありませんが、かつてのような社会全体の極端な「怯え」の感情と、そこからもたらされる混乱は明らかに和らいできています。

ただこれも、みなさん一緒に経験してきたとおり、ここまでの道のりは言うほど簡単な話ではありませんでした。「感染症の拡大防止」という「疫学的・医学的見地」だけで考

えれば、感染症の拡大をより厳格に徹底的に抑え込むことは可能だったでしょう。

しかし、一方で経済や教育の見地が存在し、一面からだけの見方で正解を選び、脇目も振らずにそちらの方向に突き進むのは、別の意味で大変危険なことであり、一つの目的だけのために他の要因を考慮せずに全員が方向に走り出せるほど現代社会の構造は単純ではないからです。



### 正しい情報に 導くために

考えることは簡単です。「トイレットペーパーがなくなる」という情報を元にスーパーに走る」という行為も、「ある情報を元に考えた結果の行動」であることは間違いありません。

しかし大事なことは、「考える目的」が「正しい結論に辿り着くこと」・「自らの行動を正しい方向に向けること」だということです。誤った情報に基づいて考えても、正しい目的地に辿り着く可能性は低い。

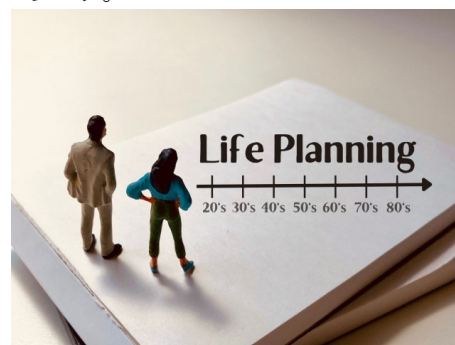
だからこそ、正しい情報が必要なのです。と同時に大切なことは、その正しい情報が複眼的な視点でみた上での正しい情報でなければならないということです。



正しい結論に至るためには正しい知識、しかも特定の分野に偏っていない幅広い知識が絶対に必要で、新たな知識を正確に理解するためにも、また多くの知識が必要となります。もっている知識が広く深いほど、考える幅も広く深くなります。また、もっている知識が多ければ多いほど、あらゆる可能性を検討でき、より多くの人々の納得を得やすく、自分勝手な独りよがりとは違う、反論に対してもそう簡単には折れない結論を導くことができるはずです。

### 自分の生き方を するために

「学力とは考える力だ」という理念は正しいと思います。しかし、それが成り立つためには、その主体、つまり学習者である生徒が基礎的知識を確実に身に付けていることが最低限の前提です。さらに言えば、ここで言う「基礎的知識」には「これだけ知っていれば十分」というラインはなく、その範囲に終わりはありません。言うまでもなく、ありとあらゆる知識が「考えるための基礎」となり得るからです。



そうしてあらゆる知識に基づいて考え、正しい結論に至るためのプロセスを踏むこと。そして、その正しい結論に基づいて自らの行動を主体的に決定する行為。私は、それを「自由」と呼んでいます。「自由に生きる」・・・つまり、自らの生き方を、周りの流言飛語に惑わされることなく自分の力で決め、どこの誰とも分からない無責任な他人の考えに振り回されずに生きるために、少しで

も多くの正しい知識を自らの血肉としておくこと・・・先の見えないこれからの世の中を生きて行くためには、その準備が絶対に欠かせない。

すぐには役に立たず、いきなりメシの種にはならないような、一見無駄に思える勉強をなぜしないといけないのか?

もう言うまでもありません・・・「自分の生き方を、他人に操らせないため」です。

新型コロナの混乱は収まっても、しばらく時間をおいて、また新たな感染症の嵐が我々を襲うでしょう。その時、私たちは今回の経験から得た学びをどのように活かすことができるでしょう?

私自身、まだまだ勉強中です。



「きゅうがめら」  
は、次号でいよいよ  
200号

を迎えます。  
これからも、ご愛読  
よろしく願いいた  
します。